

令和 2 年 5 月 28 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B)（特設分野研究）

研究期間：2016～2019

課題番号：16KT0039

研究課題名（和文）慢性紛争下における栄養問題の二重負担：克服の鍵としてのヘルスリテラシー

研究課題名（英文）Double burden of malnutrition under the chronic conflicts in Palestine: health literacy as a key factor to overcome the challenges

研究代表者

神馬 征峰（JIMBA, Masamine）

東京大学・大学院医学系研究科（医学部）・教授

研究者番号：70196674

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、紛争が長期化するパレスチナにおいて青少年が生き抜く鍵として、ヘルスリテラシーに着目し、それを向上させる条件や効果を明らかにするため、質的手法、量的手法の両方を用いて調査を行った。その過程で、パレスチナにおけるアラビア語版のヘルスリテラシー尺度の信頼性と妥当性を確認した。大学生の間ではヘルスリテラシーの男女差も新たな課題として浮き彫りになった。本研究の成果により、ヘルスリテラシーは慢性的な紛争など暴力への曝露による健康への悪影響を緩和することが明らかになったため、過酷な環境で暮らす青少年が、ヘルスリテラシーを向上することによって、よりよく健康に生きられる可能性が示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

パレスチナにおけるヘルスリテラシーの研究はこれまでになく、青少年の健康情報源やヘルスリテラシーのレベル、また関連する要因を明らかにしたことは学術的意義をもつ。パレスチナにおいてアラビア語版ヘルスリテラシー尺度の妥当性と信頼を確認できたことも、学術的に大きく貢献できた点である。政治的混乱から、現在の厳しい環境の改善は難しく、そのような状況下でも青少年がよりよく健康に生きるためのツールとしてヘルスリテラシーの可能性を提示できたことは、社会的意義が深い。

研究成果の概要（英文）：We conducted quantitative and qualitative studies to identify the factors associated with and the potential of health literacy as a key factor for adolescents to survive chronic conflicts in Palestine. During the research, we validated the Arabic version of the health literacy assessment scale in Palestine. A challenge against the gender gap in health literacy among Palestinian university students arose during the study. We found, through this research, that by improving health literacy levels, adolescents might be able to live healthier and happier lives even under the circumstances of chronic violence.

研究分野：国際保健

キーワード：学校保健 栄養問題の二重負担 肥満 低栄養 紛争地 パレスチナ 混合研究法

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

1. 研究開始当初の背景

紛争の長期化、及び急速なグローバル化と栄養問題の位置付け

パレスチナは、100年近く続く紛争により、政治的な暴力に苦しんでいる。とりわけ脆弱な子どもは、健康や栄養面において深刻な影響を受けている。かつては栄養失調等に見られる低栄養にのみ焦点があてられていたのに対し、近年は移動制限や食産業のグローバル化の影響を受け、栄養過剰も同時に課題となっている。このような栄養問題の二重負担(低栄養と高栄養)が多くの低中所得国で顕在化している。しかしすべての子どもがその影響を受けているわけではない。そして、この事実は、慢性紛争下であっても、この課題を克服する何らかの方法がありうることを示唆している。その方法が特定されれば、困難な状況下であっても、より多くの子どもが、問題解決のための対策を講じ、健康増進への取り組みや予防を実践していけるようになる。しかしながら、暴力を特徴とする紛争が栄養問題の二重負担に及ぼす影響や、その克服方法についての先行研究はほとんどなく、学術的にもこれらの解明が持つ意義は大きい。

困難な状況に打ち勝つには：克服の鍵としてのヘルスリテラシー

現状パレスチナの紛争は慢性化しており、これからも続いていくかもしれない。しかし、徐々に進む地域のグローバル化に伴う情報を個人が最大限に活用し、苦難を克服し、健康な暮らしを送っていくことができれば、その経験はやがて紛争解決の糸口になる可能性がある。特に将来を担う子どもたちはその可能性を秘めている。様々な情報へのアクセスが可能となった今、健康の維持にはヘルスリテラシーが欠かせない要素となっており、栄養に関しても同様である。しかしながら、パレスチナではヘルスリテラシーの効果についての研究がこれまでなされていない。

2. 研究の目的

本研究は大きく分けて二つの目的を基に行ってきた：紛争が長期化し、グローバル化が進む現代のパレスチナにおいて、子どもの栄養状態に与える影響に着目し、暴力への曝露レベルが異なる都市・農村・難民キャンプで、8歳から12歳の子どもの栄養状態(低栄養、過体重・肥満等)における相違点を特定する。ヘルスリテラシーと子どもの栄養状態との間にどのような関連があるのかを暴力への曝露レベルに応じて検証し、ヘルスリテラシーを高めるための条件を特定する。

3. 研究の方法

本研究には、質的手法、量的手法の両方を用いた混合研究法を用いた。パレスチナの異なる社会経済状況、発展段階及び政治的暴力の被害レベルにある地域において、世界初の取り組みとして、8歳から12歳の子どもを対象に栄養状態に関する調査を行った。そして、学童の栄養状態、特に低栄養と栄養過剰(過体重や肥満)の原因を特定に取り組んだ。また、紛争による困難な状況が続いたとしても、栄養問題の二重負担を含む健康上の苦難を子どもが自ら克服するためのツールとして、ヘルスリテラシーを測定した。

まず、学童の栄養問題及びヘルスリテラシーの構成要素を洗い出すために、質的調査手法によりキーインフォーマントインタビュー調査を行った。得られた結果、及び地域の状況を反映した栄養問題とヘルスリテラシーの測定尺度を開発した。その後、8歳から12歳のパレスチナ学童において、開発された尺度を用いて栄養問題、ヘルスリテラシー、暴力の被害等についての質問票(アンケート)調査を行った。さらに、ビルゼイト大学の学生を対象にヘルスリテラシーのレベルに関連する要因を特定する調査研究を行った。調査結果を現地で情報提供するとともに、学会での報告や論文としての発表を行うための準備を行った。(キーインフォーマント=核となる情報提供者)

4. 研究成果

2017年1月から2月にかけて、ラマッラー県の青少年、教師、保護者、計33人に対して、半構造化インタビューを実施した。その結果、パレスチナの青少年は、リプロダクティブヘルス、ライフスタイル、個人の衛生状態、環境保健、メンタルヘルス等、様々な健康問題の情報にアクセスする必要があることが示された。また、青少年の一部はパレスチナにおける暴力の問題と健康状態に関連があることを指摘していた。多くの調査対象者は、青少年が健康情報を検索する意欲があることを認識しており、青少年の健康情報の主な情報源は、母親、友人、学校、インターネットということも示された。

これらの結果から、ヘルスリテラシーの向上は、慢性的な紛争を含む暴力への曝露による健康への悪影響を緩和するために有効であることが示唆された。そのために、パレスチナにおける青少年のヘルスリテラシー尺度の開発と、ヘルスリテラシーに関わる因子を分析する新たな研究の重要性が確認された。この質的研究の結果は、2019年3月にヨルダン・アンマンで開催された国際学会「第10回ランセットパレスチナ保健連合会議」にて発表しベストポスター賞を受賞した。また、日本健康教育学会誌に原著論文“Perceptions of adolescent health literacy in the Palestinian social context: a qualitative study”として発表した。

2017年5月にビルゼイト大学の学生480人を対象に行った調査研究では、父親の学歴や検診に行く頻度、本人の健康状態や健康に関する情報源の多さがヘルスリテラシーに関連する要因であると特定した。対象者のうち、男子学生の方が女子学生よりもヘルスリテラシースコアが高く、ヘルスリテラシーにおける男女差も新たな課題として浮き彫りになった。この差は、文化的側面や生活環境に根付いている可能性が高い。男女共にヘルスリテラシーを向上させるためには、背景にある性差も考慮した対策が必要となる。この研究結果は、Health Promotion International 誌に投稿しており、査読を終えて、修正稿を提出し、受理を待っているところである。

2017年8月から9月には、ラマッラー県及びアルビイレ県の12歳から15歳までの青少年1200人に対して、戸別訪問調査で、栄養の二重負担を分析するための体重と身長測定とそれらに基づくBMI値の算出、本研究で翻訳したアラビア語版青少年用ヘルスリテラシー尺度によるヘルスリテラシーの測定、紛争下におけるWell-Being等についてのデータ収集を行った。パレスチナにおける青少年のヘルスリテラシーの分析は初の研究であった。この調査に用いたアラビア語版青少年用ヘルスリテラシー尺度の信頼性と妥当性について分析し、両者とも十分であることが示された。この結果は、“Psychometric properties of an Arabic-language health literacy assessment scale for adolescents (HAS-A-AR) in Palestine”としてBMJ Open 誌に投稿した。報告対象時期からは若干ずれるが、2020年5月に同誌に受理され、まもなく公開される予定である。これはアラブ諸国において、思春期児童を対象に開発したヘルスリテラシー測定ツールであり、今後多くの引用がなされることが期待できる。また、ヘルスリテラシー尺度の信頼性と妥当性が証明されたので、今後、ヘルスリテラシーと栄養の二重負担、ヘルスリテラシーと紛争下におけるWell-Being等について、分析を進め、論文にまとめていく予定である。

2017年11月には、ビルゼイト大学のRita Giacaman教授、国連パレスチナ難民救済事業期間（UNRWA）保健局長の清田明宏氏らを招いて、グローバルヘルス合同大会内でシンポジウム“No Health without Peace – A Case of Palestine”を開催した。これに加え、東京外国語大学アジア・アフリカ研究所 中東イスラーム研究拠点及び東京大学東洋文化研究所班研究「中東の社会変容と思想運動」と共催して国際ワークショップ“Health and Peace of Palestinians”を実施した。これらの活動により、研究によって得られた結果のみならず、本研究の起源とも言えるパレスチナにおける現状や問題を参加者に広く伝えることができた。

2018年10月には研究代表者である神馬征峰が、台湾で行われた第6回アジアヘルスリテラシー国際学会で“How to promote a health literate society-experiences from Japan”というタイトルのもと講演を行った。

総括として、2020年2月に再度 Rita Giacaman 教授を東京大学に招いて講演及び勉強会を開催する企画を立てていたが、新型コロナウイルスの影響で来日が叶わず、中止となった。状況が改善次第、パレスチナ側の専門家と共に日本でも成果発信の場を持つことを検討している。

本研究の成果により、慢性的な紛争下で心理面に負の影響を与える環境で生き続けている青少年が、ヘルスリテラシーの向上によって、よりよく健康に生きられる可能性や希望が示された。この分野での研究の発展の重要性を確認し、2019年度からは、健康と教育の両側面に着目した研究を立案し「ヘルスリテラシーや学校保健活動参加がパレスチナ人生徒の就学継続に与える影響」について、ビルゼイト大学と共に取り組み始めることにつながった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Mohammed B A SARHAN, Akiko KITAMURA, Rika FUJIYA, Masamine JIMBA, Rita GIACAMAN	4. 巻 27(1)
2. 論文標題 Perceptions of adolescent health literacy in the Palestinian social context: a qualitative study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Health Education and Promotion. 2019;27(1):29-42.	6. 最初と最後の頁 29-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.11260/kenkokyoiku.27.29	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 1件/うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Mohammed BA Sarhan, Akiko KITAMURA, Rika FUJIYA, Masamine JIMBA, Rita GIACAMAN
2. 発表標題 Perceptions of adolescent health literacy in the Palestinian social context: a qualitative study
3. 学会等名 The 10th Lancet Palestinian Health Alliance (LPHA)（国際学会）
4. 発表年 2018年～2019年

1. 発表者名 Rita Giacaman
2. 発表標題 Health of Palestinians
3. 学会等名 グローバルヘルス合同大会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 清田明宏
2. 発表標題 Health Issues for Palestine Refugees: "No health without peace: why SDG16 is essential for health"
3. 学会等名 グローバルヘルス合同大会（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 今野泰三
2. 発表標題 No Peace without Justice - How to achieve the Palestinian sovereignty and self-determination through health?
3. 学会等名 グローバルヘルス合同大会 (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	藤屋 リカ (FUJIYA Rika) (40583935)	慶應義塾大学・看護医療学部 (藤沢)・講師 (32612)	